歴史講座報告書　第３集

安産の神・胞姫さん

米山地区コミュニティ振興協議会

ま　え　が　き

歴史には、人を強く引き付けるロマンとミステリーが満ち溢れている。

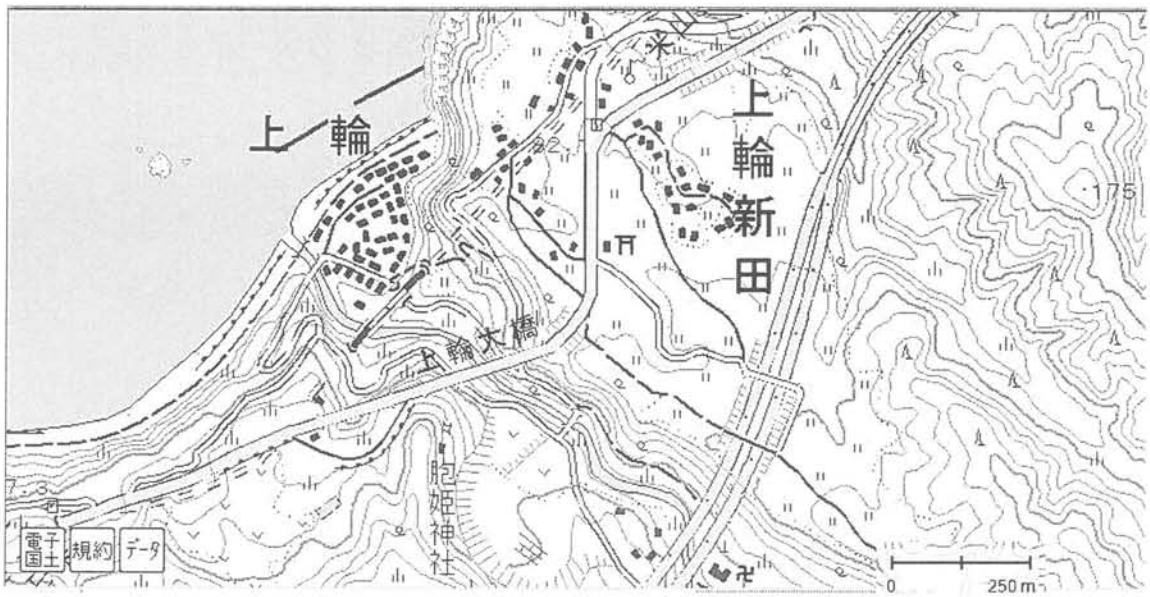
当振興協議会では、地域課題解決事業として、平成１７年度から、「地域の宝に光を当てる事業」に取り組んでいます。
具体的には、① 地域の歴史・文化・についての学習　② 地域の歴史・史跡に関する古文書解読　③ 米山地区ガイドマップの作成　④ 歴史講座の開設等々です。
これらの活動成果を、 報告書第１集１「御館の乱と旗持城」、第２集「大泉寺観音堂」、第３集「安産の神・胞姫さん」、第４集「北國街道と米山三里」として刊行することができました。
この報告書が地域の歴史や文化財に対する理解を深め、さらに先人の生活を再認識する一助となれば幸いです。

この報告書第３集「安産の神・胞姫さん」の作成に当たり、直接ご指導いただきました柏崎市博物館 学芸員 渡邉三四一様に厚くお礼申しあげます。

平成２２年３月

米山地区コミュニティ振興協議会
会長　　茂田井　信彦

「胞姫神社」の位置



目　次

1　胞姫さんの始まり（縁起＝伝説）…… 1

源義経の北の方（奥さん）が「かめわり坂」（上輪）で産気づく

弁慶の祈願・助力で無事「かめわか丸」を出産

胞衣（お腹の赤ちゃんを包む膜）を埋める→胞姫神社

2　胞姫さんにお参りする人々 …… 2

昭和61年の参拝者・・・県内の全域・県外・東京からも

胞姫さんの奉納物から・・・最近の奉納物と昔の奉納物

3　胞姫さんと弁慶の力餅 …… 5

上輪名所案内（かめわり坂・産清水・弁慶茶屋などなど）

4　広がる胞姫信仰 …… 8

妙泉寺（日蓮宗）の活動（江戸末～明治期）

県内各地に胞姫さん分社や石碑が建つ（江戸後期～）

1　胞姫さんの始まり（縁起＝伝説）

社名となっている胞姫の「胞」は、胞衣（えな）を意味する。この由来について、当社に所蔵される天保３年（１８３２年）の「胞姫神社縁起」では、おおよそ次のように説明している。

文治２年３月、源義経一行が奥州へ下向する際、直江津から船にのったところ嵐にあい、やむなく上輪に漂着した。現在の亀割坂にさしかかると、北の方が急に産気づき、一同近くの柳の葉で仮の産所を設け、また弁慶は懐中の餅を力餅として北の方に食べさせ、一丁程離れた場所(現在「弁慶の産水井戸」と呼ぶ地）で「南無や氏神正八幡」と念じ金剛杖で突くとそこから泉が湧き出し、これをほら貝に汲んで若君に産水として注いだ。弁慶は北の方が無事出産できたお礼に、当時の鎮守の境内に亀若丸の胞衣を納め、胞姫大明神を祀り、あわせて源氏の氏神である諏訪・八幡の両神を勧請した。

「胞姫信仰の形成と展開　渡辺三四一著」柏崎市立博物館館報Ｎｏ．２から

胞姫神社起縁

義経公北方御産所傳記

そもそも當所之御鎮座ます胞姫大明神の由来をくわしくたづね奉るに頃は文治二年弥生のすゑ九郎判官奥州下向の折ふし吉野山伏姿にさまをかへ忍び出給ふ　御供には亀井片岡伊勢駿河權守兼房武蔵坊弁慶しうじう十七人にて加賀の國富樫が関をのがれさせ給ふ　日を送り當國は直江津に着せ給ふ　是より御舟に召され寺泊の浦に御舟を寄られんと思し召す所に佐州北の山だけより平家の一類たたりをなし波かぜあらふして御舟をくつがへさんとせし處にへうへうとして當所の浦に入津らせ給ふ　夫より此山にさしかかり北の方しきりに御はら痛み皆々驚き笈をおろしはいしたといたし、すなわち柳ありける枝をかり敷きここぞ御産所と定め則ち御産平安なさせ給ふ　此ときより子安柳と名附け今に柳の跡あり　其時弁慶懐中より餅壱つ取出し力餅として奉る　扨又壱丁程行少しのみちにて南無や氏神正八幡水を出したまわれと大地に金剛杖を突たつれば水たちまちわき出たり　あら難有やほら貝にて汲取りて御産所へ持参り若君をそそき奉り則ち御寿命三浦の大掾にあやかりませ御威勢は御父に似させ給ひ恐れながら力は武蔵坊にあやかりましませとて則ち御名を亀若丸と附奉る。其時より此山を亀割山と号すなり　是より南に當り胞を納めたてまつる胞姫大明神とそんたい致し（ママ）當所の鎮守とちん座なし奉る此宮に弁慶胞を納め奉る印の石あり　則ちわきだち源氏の氏神諏訪八幡御立ましまします　是より西にあたり亀若丸誕生の跡屋敷あり北に當り産水あり、いか成る日てりにても此水ひる事なし、則ち此水にて餅を突き力餅とし名代をひろめ一切女人の守神とならせ給ふ　又是より北西の間に白糸の滝所々にきすいをあらわせ給ふ　れい神能々信心あるべきものなり

天保三年五月

越後國頸城郡下美守郷米山腰上輪

胞姫神社

胞姫神社鎮座次第

2　胞姫さんにお参りする人々

(1)参拝者の数

・大正13年4月～15年3月・・・・柏崎市、長岡市、潟町村、高田市、柿崎村が多い。

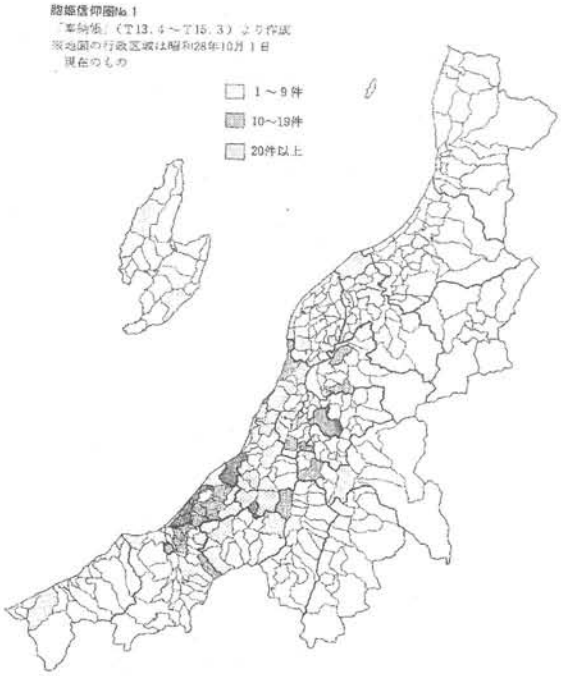


図1

表3　「奉納帳」「寄附者名簿」による市町村(旧)別件数

郡	旧市町村名	奉納帳	寄附名簿	郡	旧市町村名	奉納帳	寄附名簿	郡	旧市町村名	奉納帳	寄附名簿
西蒲原郡	名立町	5	3		高田市	17	21	古志郡	その他	2	16
	青海町	2	2		その他	1	22		十日町村	1	0
	糸魚川町	0	1	北魚沼郡	小千谷町	3	7		長岡市	13	27
東蒲原郡	保倉村	5	6		塩田村	1	10	西・南・中蒲原郡	橋尾町	5	1
	下保倉村	1	6		浦之西町	0	2		その他	2	10
	牧村	2	2		その他	0	5		小名川村	1	0
	松代町	1	0	刈羽村	石黒村	9	19		内野村	1	0
	その他	2	5		南鯖石村	3	0		地蔵堂町	7	9
中頸城郡	旭村	4	7		椎谷村	1	0		島上村	1	0
	黒川村	6	6		北条村	1	1		間瀬村	1	0
	潟町村	22	24		二田村	1	3		馬町	2	3
	直江津町	14	13		西郷村	1	4		三条町	5	6
	大瀬村	9	19		野田村	2	1		亀田町	2	0
	有田村	3	0		高浜村	1	2		見附町	4	10
	上杉村	1	2		荷頃村	2	1		新潟市	2	3
	新道村	1	0		中浦村	2	1		その他	0	11
	源辺村	2	9		山潟村	1	0	佐渡郡	高千村	1	0
	橋池村	5	7		石地村	1	2		赤泊村	1	0
	吉川村	5	10		高柳村	1	1	県外	北海道	3	2
	寺野村	7	1		柏崎市	21	48		名古屋市	1	0
	源村	2	0		その他	0	22		東京	9	12
	新井町	1	8	三島郡	片貝村	6	6		埼玉	5	1
	黒岩村	1	0		出雲崎町	5	5		群馬	3	0
	柿崎町	9	19		岩塚村	7	7		長野	0	6
	板倉村	1	0		日吉村	2	2		神戸市	0	1
	米山村	1	4		来迎寺村	3	5		富山	0	1
	八千浦村	4	3		島田村	1	0		横浜市	0	2
	上輪村	1	3		脇野町	4	5		大阪	2	0
	津有村	1	11		西越村	3	1		奉天	0	1
	谷浜村	1	1		寺泊町	7	3	計	計	311	515
	春日村	3	3		与板町	1	3				
	明治村	3	7		大積村	4	2				

・昭和27年8月～29年7月の参拝者

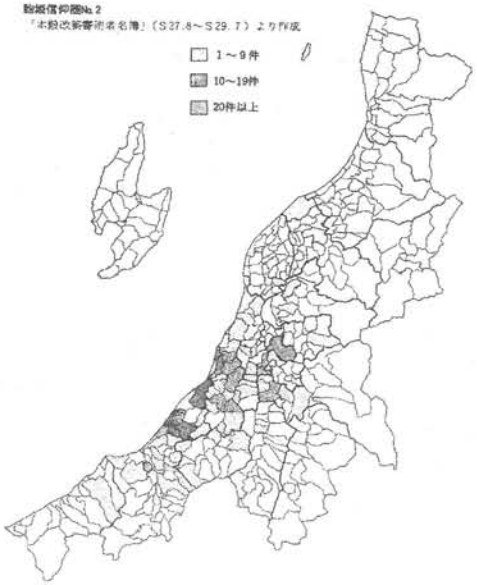


図2

・昭和61年の参拝者
…県内全域から参拝者がある。

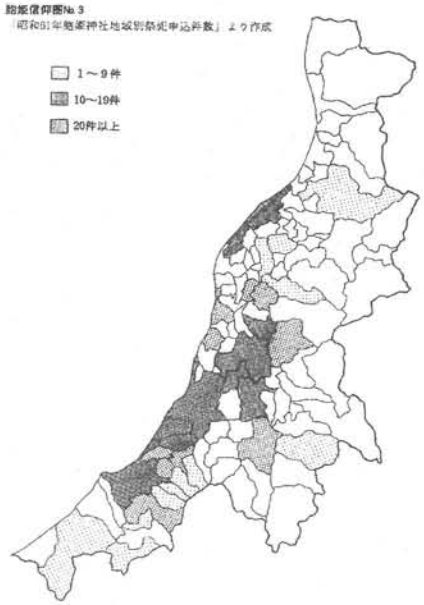
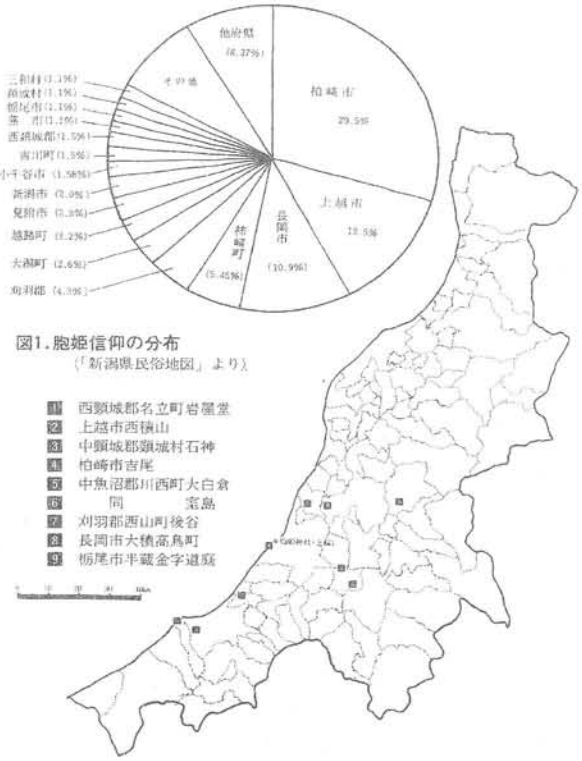


図3

「胞姫信仰の形成と展開－近世期を中心に－　渡邉三四一著」
柏崎市立博物館ＮＯ．２から

〈表２〉61年胞姫神社地域別祭祀件数



〈表 1〉 昭和61年胞姫神社地域別祭祀申込者一覧（その 1）

	安産祈願	初宮参り	子授け(他)	計
柏崎市	275	175	15	465
上越市	126	64	7	197
長岡市	99	62	11	172
新潟市	19	11	2	32
加茂市	2			2
見附市	18	17		35
三条市	11	2	3	16
十日町市	7	3	1	11
栃尾市	10	6	1	17
小千谷市	18	6	1	25
燕市	11	7		18
新津市	3	1		4
白根市	2			2
六日町	1	3		4
寺泊町	8	4		12
越路町	26	9		35
三島郡	7	1		8
刈羽郡	45	20	3	68
北蒲原郡	3	2		5
中蒲原郡	1			1
西蒲原郡	15	6	3	24
南蒲原郡	10	5	1	16
北魚沼郡	1		1	2
中魚沼郡	1	1	2	4
出雲崎町	5	9		14
柿崎町	47	27	12	86
吉川町	17	7		24
大潟町	28	13		41
頸城村	13	5		18
三和村	14	3		17
中郷村	3			3
栃倉町	6	2		8
清里村	4	2		6
浦川原村	8	4		12
新井市	9	5		14
糸魚川市	3	3		6
妙高々原町	1	1		2
西頸城郡	2	1		3
東頸城郡		3		3
安塚町	4	1		5
牧村	4	2		6
新発田市	1	1		2
他府県	80	39	13	132
総計	968	533	76	1577

・胞姫神社祭祀件数　平成20年10月～21年9月　735件

…県外からの参拝者も多くなっている。

祈願内容別

安産祈願	467件
初宮詣り	242件
その他	26件

＊「その他」内訳

子授祈願	19
厄払い	3
合格祈願	2
七五三	1
健康祈願	1

申込者住所別

市内(柏崎・刈羽	217件
県内	431件
県外	85件
海外	1件
記入なし	1件

＊「県内」内訳

上越市	166
長岡市	124
新潟市	51
燕市	16
三条市	13
妙高市	12
見附市	11
小千谷市	10
十日町市	6
新発田市	5
糸魚川市	4
魚沼市	3
南魚沼市	2
川口町	2
村上市	2
五泉市	2
加茂市	1
田上町	1

＊「県外」内訳

東京	28
千葉	12
埼玉	11
神奈川	8
長野	5
愛知	4
富山	3
群馬	2
秋田	2
宮城	2
栃木	1
石川	1
三重	1
広島	1
福岡	1
長崎	1
鹿児島	1
沖縄	1

人物館　早川美奈子氏作成

(2)胞姫さんの奉納物

・最近の奉納物・・・本人や家族

子授(こさず)け・安産・お礼参り(成長を願って)のものが多い。

・昔の奉納物・・・助産婦や産婆さん

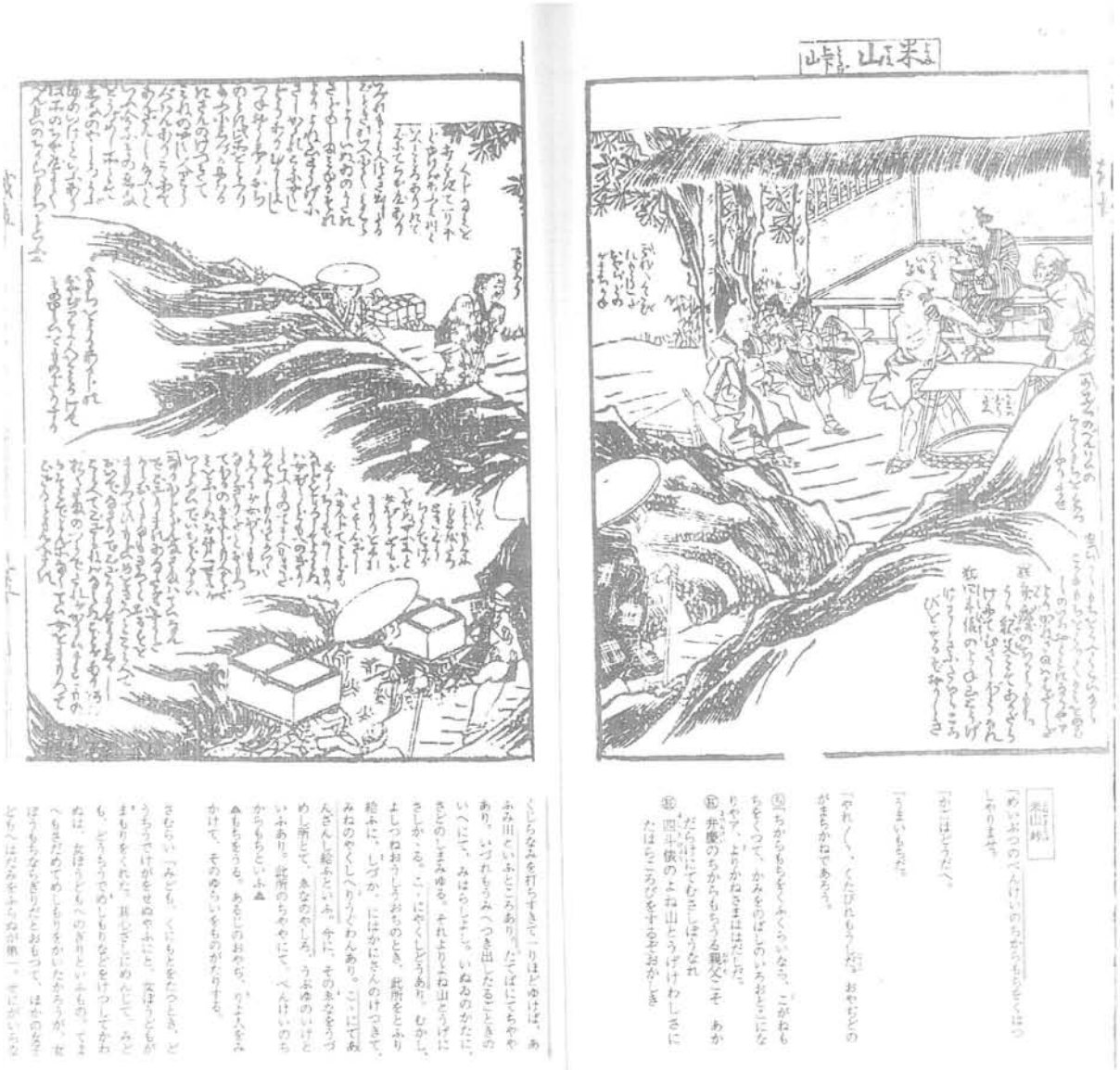
昔は、お産は命懸けで助産婦・産婆さんによる自宅出産だった。昔の奉納物は、助産婦や産婆さんのものが多い。

3　胞姫さんと弁慶の力餅（上輪が紹介されている文献や絵図）

北國街道の鉢崎より鯨波にいたる間は、「米山三里」と呼ばれる交通の難所であった。そのうちの亀割坂には、茶屋があったといろいろな文献で紹介されている。

この茶屋の名物が「弁慶の力餅」。これは、「源義経が奥州落ちの時、奥方が亀割坂で亀若丸を出産した。弁慶は杖をついて清水を掘り出して産湯をとり、懐中より餅をひとつ取り出して献上した」という伝承（1胞姫さんの縁起）に由来するものである。また、弁慶の力餅には「源氏の白茶」と称して、ただのお湯が添えられていたようである。

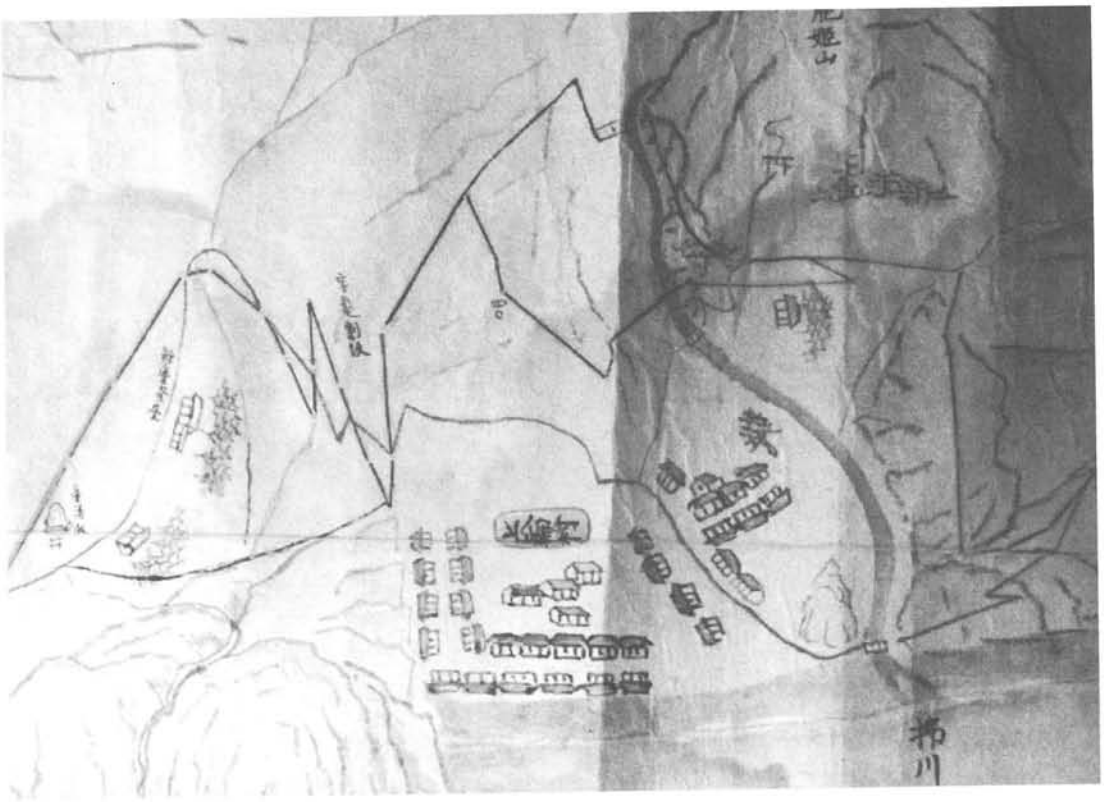
○「胞衣の社」「産湯の池」「茶屋」「弁慶の力餅」が明記・・・「金の草鞋（文化１１年・１８１４）」



○茶屋で売られていた縁起本（胞姫明神のいわれが書かれていた本）

「柏崎日記（弘化4年　１８４７)」に、茶屋で縁起本が売られていたことが書かれてある。

○「産清水」「弁慶茶屋」「字亀割坂」の位置が明記・・・「米山三里測量図(明治１３年・１８８０)」



○「産清水」

旅人にとって「水」は貴重であった。弁慶茶屋はこの近くにあり、茶屋の親父や老婆は「この産清水で餅を作って安産のお守りとする」と弁慶力餅の縁起を語り、巧みに旅人を店に誘っていたようだ。

以前の「産清水」

明治天皇が北陸巡幸されたとき、小休止されたことから「御膳水」ともよばれ、碑が建てられた。

○明治末期から昭和初期の写真（柏崎市史資料集 近代編から）

明治四年　よな姫神社石段
これが長かった。今は上の
方に来て着く。

弁慶茶屋の包み紙　上輪

弁慶茶屋と胞姫神社参道

よな姫下の弁慶茶屋
基石はどの力餅が
忘れられない。

4　広がる胞姫信仰

(1) 上輪山妙泉寺との関係

胞姫神社成立の背景には、近くの妙泉寺という寺が深く関与していたと考えられる。

上輪山妙泉寺は、暦仁元年天台宗の寺として出発したが、応安元年（１３６８）に日翁によって日蓮宗に改宗している。この妙泉寺と胞姫信仰との関係は、当社発行（明治以降に書かれたと思われる）の「胞姫尊天縁起」が教えてくれる。内容は、妙泉寺内に祀られている胞姫尊天像の由緒を記したもので、前半は当地の源義経北の方出産の伝承を、後半は当山十三代目日護聖人の夢に胞姫尊天が顕れ霊告を蒙ったことから、胞姫尊天及び八幡大士・諏訪明神の三体を彫像し以後婦女子の守護神として祀ったと説いている。

一般に村落における社寺の経営の主体は、地元の住民が行ってきた。したがって神社を経営するものが同時に寺院の経営にあたるということは極めて多い。胞姫神社と妙泉寺のケースも同様である。明治に入って神仏分離政策が定着するなかで、胞姫神社の祭祀は柿崎の圓田神社に移された。

「胞姫信仰の仏教的展開－明治期を中心に－渡邉三四一著」柏崎の民族　創刊号から

上輪山 妙泉寺

胞姫尊天像(妙泉寺)

(2)胞姫信仰関連社寺

妙泉寺の仏教的胞姫信仰は、28代住職日徳以後県内の寺院に受け入れられ、それらの土地で独自に定着している。

「胞姫信仰の仏教的展開－明治期を中心に－渡邉三四一著」柏崎の民族　創刊号から

胞姫信仰関連社寺（塔）の分布

No.	寺社塔名	所在地	備　　考
1	岩屋堂観音堂	名立町	胞姫像安置
2	妙国寺	上越市	胞姫尊天像
3	諏訪神社	柏崎町	小祠
4	正 平 寺	柏崎町	胞姫像（石像）
5	谷根神社	柏崎町	胞姫神社合祀
6	胞姫大明神塔	柏崎町	大正15年3月建立
7	万 福 寺	柏崎町	胞姫尊天像
8	鵜川神社(荒浜)	柏崎町	胞衣姫神社合祀
9	鵜川神社(野田)	柏崎町	世祖姫社合祀
10	胞姫神社(女谷)	柏崎町	昭和11年5月建立
11	胞姫神社	西山町	明治末頃建立
12	薬 師 寺	出雲崎町	胞姫尊天像(昭和2年)
13	胞姫大明神塔	栃尾市	文政5年3月造立
14	妙 泉 寺	橋越村	胞姫尊天像(明治26年)

胞姫神社(西山町上山田)

胞姫神社(柏崎市野田 鵜川神社)

胞姫神社(柏崎市女谷 安楽山)

胞姫大明神塔(柏崎市南田尻)

胞姫像（正平寺）

正 平 寺

1　越後国頸城郡絵図　慶長2年・1597　（スライド）

2　北越軍記　寛永20年・1643

リシカバ、府内勢遽騒テ、人馬弥カ上ニ崩レカ、リケル。此山中ニ亀割坂ト云大切所アリ。数十丈ノ崖ニテ、下ハ漫々タル大海ナリ、北国ニ隠ナキ大切所ナルニ府内勢追立ラレ、彼崖ヨリ海ニ落ル人馬数不知。晴景モ漸ニ落逓レテ府内勢ト俱ニ城ヘ取籠ヲレケルヲ、宇佐美定行本庄慶秀追詰テ、府内城ヲ取囲シカバ（後略）」

米山合戦　見晴景及び長尾晴景の兵と戦う　景虎（ママ）は（天文七・五・二）

3　越後国絵図　正保2年・1645　（スライド）

4　野田村検地名寄帳　貞享元年・1684

町　反　畝
○よなひめ　上々田　六　二〇歩　長四郎㊞
屋敷添上畑　二〇　同　人
あら町下畑　三　六　同　人
屋敷　一　一八　同　人
」
田畑屋敷合壱反弐畝四歩㊞
此分米壱石五斗五升弐合
内
上々田　六畝弐拾歩
此分米壱石壱斗三升三合
上畑　弐拾歩
此分米六升七合
下畑　三畝六歩
此分米壱斗九升弐合
屋敷　壱畝拾八歩
此分米壱斗六升
畑屋敷〆五畝拾四歩
此分米四斗壱升九合
町　反　畝
9よなひめ　青苧畑　一五歩
」
此分米五升
分米合壱石六斗弐合㊞
町　反　畝
○よなひめ　上田　一　八　一〇歩　惣助㊞
同　所上田　四　一三　同　人
ととめき　上田　四　四　惣助
塚　田上田　二　三　一〇　同　人
しいの畑　上田　五　一　同　人
」

— 163 —

5　越路紀行　（1690）　元禄～宝永

廿四日。柿崎を出て栃村といふ所を通りぬ。昔は此所風俗至りて暴々しく。哀れといふ事は露知らず。人心なき習はしにて。風に放たれて浮沈みて渚に寄る船を見ては。男女の数を盗して立出で。財宝殘らず奪ひ取り。乗れる人をば打殺して浜辺に捨置き。家々に帰りて財宝を分ち取りて。悦ぶ事限りなしと聞く。今は然る事なきにや。「鉢の子を伏せたる形したる山の。絶たる様にて列なりたる峰の見ゆるは。鉢崎とかや云なる。あれは。瓶破坂なと云ふ嶮しき道なり。源義経赴ニ奥州一時。過ニ北陸一。扮ニ夫人一到ニ瓶破坂一。夫人俄生産。今路傍有ニ浴レ兒井一。又有ド納ニ胞衣一地上。設ニ祭祠一。稱ニ胞衣納宮一。辨慶盛レ忠事。詳見ニ軍志一。但以ニ瓶破坂一爲ニ出羽地一。不レ可レ考。

勞々

「鳥取坂」

6　和漢三才図絵　　正徳2年・1712

相伝ふ、源義経北国落ちの時、此に産むと云云。其の北の坂を逢見坂と名づく。嶺に薬師堂有り。其の麓の村を三本松村と名づく。森有り、是の山に於て胞衣を埋む、祠有り、胞衣の社と号す。今に於て土民胞衣を此に埋む。両坂の中間に池有り、胞衣を洗ひ、産湯に用ふと云云。（傍点筆者）

7　鉢崎組村鑑帳写　　延享3年・1746

一屋敷八反三畝拾歩　　胞衣姫大明神除地

是は右同断

一産水所

是は亀若丸御誕生之産湯水ト申伝候

戸田能登守様御代井戸側石・場所立石等御修覆被遊候

一亀割坂茶屋弐軒有

此所ニ而先年源義経公御上下十四人奥州江御下向之節、御内所御産被成、則胞衣姫大明神・脇立諏訪八幡弐社共ニ御勧請被遊候由申伝候

8　越後名寄　　宝歴6年・1756

産水

北陸道ノ街道筋鉢崎村ト鯨波村両駅ノ中間ハ米山腰ノ山足ニテ、三里ノ間磯山道也。其中、上輪村ニ甕割坂ト云有、上リテ嶺ノ見渡シ平ナル処ニ茶店有、道ヨリ一町斗モ隔テ、水田ノ辺ニ産水有、義経、世ヲ忍テ奥ヘ下リ給フ折節、北ノ方、此所ニテトミニ出産有シニ、弁慶取ハカラヒ、此水ニ浴シケルトカヤ。近比、高田ノ領主ヨリ石ノ井筒ヲ置レタリ。又、道ノ傍ニ産所ノ址トテ標ヲ建タリ。上輪村最賤シキ里ナレト、其折節、何カ謂レ有テ、五月帯ヲスル事ナシ。今カ世ニ到テモ難産ナシト云リ。

向ヒノ山林ノ中ニ胞衣権現ノ宮有。凡此当リ、海上ノ気色、山ノ風情、眺望最佳。

9　越の風車　　明和8年・1771

産湯の清水附り西行石の事

頸城郡笠島といふ海邊の村は、奥州の街道なり。此所に、米山峠といふ難所あり。此峠の上に、廻り三尺許りの石にて疊みし清水あり、是を産湯の清水と云ふ。是は昔、源義経、奥州下りの時、此處にて亀の前山産し、辨慶、此清水にて生子を洗ひしなり。夫より産湯の清水と名付けし也。此峠、亀割坂ともいふ也。今に、此所にあやしき茶屋をかけて、日〻笠島より臼と杵を持ちはこび、其清水にて、相取りして餅を搗く、辨慶の力餅と名け、名物也。此茶屋に立寄れば、旅人にあたふる也。其時に望めば、清水の由來、假名あしくよみ聞せる也。旅人の一笑、旅のうさをもわするゝたよりともなりぬ。此餅、婦人服すれば、産かるしとて、みやげなんどにとゝのふる也。笠島海苔とて、名物あり。寒中採りしを最上として、二三月頃まで澤山あり。其黒き事、つやありて齒切れよろしく、名産也。又笠島の波打きはに、西行石とて、徑り七八尺、丈ケは一丈許りの石あり、是を西行の腰掛石と名付くる也。日により隠るゝ事あり、砂にて埋むにや。又日により出づる時は元の如く、見えぬ時は尋ぬるに所を得ず、ふしぎなる石也。是より上は、さい濱とて荒濱也。

力餅のかり

10　金の草鞋（十返舎一九）　文化11年・1814

ここに薬師堂あり。昔義経奥州落のとき。此の処を通り給ふに。靜遽かに産の気つきて。嶺の薬師へ立願あり。ここにて安産し給ふといふ。今に其胞衣を埋納し処とて。胞衣の社。産湯の池といふあり。此の処の茶屋にて。弁慶の力餅といふ餅を賣る。主人の爺旅人を見かけて。其由来を物語ずる。餅屋の爺「名物の弁慶の力餅を食はつしやりませ。「旨い餅だ。　婆「やれやれ草臥申した。爺殿が待兼であらう。　籠かき「籠はどうだへ。　千久良「力餅を食ふくらいなら。黄金餅を喰て。髪を伸しの色男になりやア。よりかねさまは洗足だ。

弁慶の力ら餅賣る親父こそ垢だらけにて武蔵坊なれ

11　北越略風土記　文政3年・1820

甕割坂産水　　北陸道鉢崎鯨波両駅ノ中間ハ米山腰ノ山足ニテ三里の磯山道也　其間ダニ甕割坂ト云アリ　嶺ノ見渡シ平カナル処ニ茶店アリ　道ヨリ少シ傍キノ田圃ニ産水トテアリ　昔シ源義経世ヲ忍ビ奥州下向ノ時夫人此処ニテ出産アリシカハ弁慶此水ヲ汲ミ浴セシトカヤ　近頃高田候ヨリ石ノ井筒ヲ加ヘラレヌ　又道ノ傍ラニ産所ノ跡トテ標ヲ建テ有リ　此辺上輪ト云最モ陋キ里ナレ共其節何カ謂レ有リテ今ノ世迄モ懐胎ノ女五ケ月帯ヲスル事ナク又難産ナシト云　向ヘノ山林中ニ胞衣姫権現ノ社アリ（越性名賢の引用）

米　山　　鉢崎鯨波両駅ノ間ダニ在リ　西北ノ梺ハ海辺ニテ上輪笠島等ノ里アリテ雪海苔ノ佳キ産所也　東北鯨波ノ方ハ少シ刈羽郡ニ係ル頂キニ薬師堂アリ（中略）又亀割坂ト云アリ　昔シ源義経北国下向ノ時夫人産ノ紐ヲ解キ玉ヘシ処也　胞衣姫明神胞衣水又弁慶力餅ト唱ヘ茶店ノ翁媼胞姫明神ノ縁起ヲ讀ミ往来ノ人ヲ慰ム（下略）

鉢足

12　筆満加勢　天保9年・1830

漸々山を下りハツ崎といへる所迄来りしに、七つ後にて泊らんと思へとも高田迄道順あしき故、此所より又々人足を雇ふ。歸りは日暮故下直にては不行といふ。ハツ崎より柿崎迄濱邊二里の間、一、金一朱と言。是にて頼む。此米山に辨慶力餅といへる有。一ト盆三つ盛りて十五文、白き餅也。其家に由来書ありて老人出て言立る。義經奥州落の時、吉野より辨慶其外十七人山伏と成加賀の國の關を安々通拔、舟にて寺泊江上らんとせしに、俄に風波烈敷平家打死の一族波に乗して顯出、御舟を轉さんとするに無是非米山の麓へ舟を寄せ上らせ給ふ。其時姫君産の御心地、辨慶大きに驚き、木の葉蘂等を集産所となし、介抱せしに御安産ある。其時水なし。辨慶當所の八幡宮を一心に拜して水を乞。金剛杖にて大地を突に不思義や、其穴より水涌出す。其水にて産湯を浴給ふ。其水今道端に少々の井戸あり。何程の旱魃にも水出ぬと言事なし。辨慶懐中より用心餅を出し、御威勢は義經卿に似らせ給へ、力は辨慶に似させ玉へといふて其餅を參らする　…に胞衣を埋し石、此山の半腹にあり。これを胞姫大明神と號す。前に記す八幡宮は法華勸請の三十番神五番神也。夫

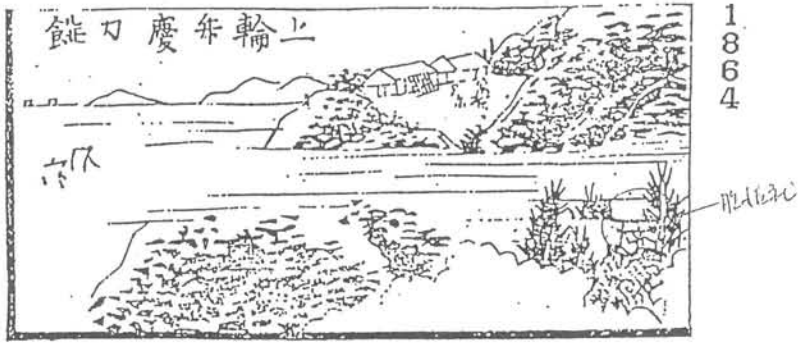
13　柏崎日記　　弘化4年・1847

十八日　（上略）村中より海道へ出少し行と稲姫宮へ行道二石燈籠有之。皆々別れ本海道より坂ヲ上り峠の茶屋ニ休足の筈。私と金子忠蔵両人胞姫明神へ行。山の中程二石の鳥居有之。夫より木立ニ成り薄暗く小気味わるき所也。ぐるぐ〳〵廻り三丁斗上り宮有之。拝殿の戸明ケ上リ奥の院へ行キ拝ヲ致し持参の米壱合相備、其代リニ箱の中に米壱升余リ有之候を壱合斗いただき候て紙ニ包ミ壱婦く給べ下リ候。此邊の氏神と相見相応の宮構ひ也。暑くて甚困リ志ゆばん壱枚ニ成リ半てんも肌ぬき大汗ながし候。夫より本之道へ出亀割坂山ト申大坂ヲ上リ峠の茶屋弐軒有之。（中略）夫より弁慶力餅給へ土産にも致ス。胞姫明神之謂れヲ認候本ヲ売リ候間壱冊買ふ。昔義経公吉野山より奥州へ落行かれ候節今町邊より寺泊迄船ニて乗出され候所風波悪敷成リ此山ニ着船之所、間もなく北之方産之催し有之、柳の枝ヲ敷御平産有之其胞ヲ納候所に宮ヲ立候由。茶屋の少し南ニ田の中ニ井戸有之、弁慶の掘り候由。此水ニて若君洗ひ上け御名ヲ亀若丸と名付ケ候。其節此邊より餅ヲ北の方ニ参らせ候より力餅と名付申候由。（下略）

14　越後土産　　元治元年・1864

弁慶力餅茶屋

米山峠のうち、上輪村亀わり坂頂上ニあり。文治年中、源義経奥州下向の折から、北の方此処にて出産し給ふ。因て弁慶力餅。源氏白茶の名物あり　事ハ緑記ニ委し、略す。産清水の事ハ別記ニ出す

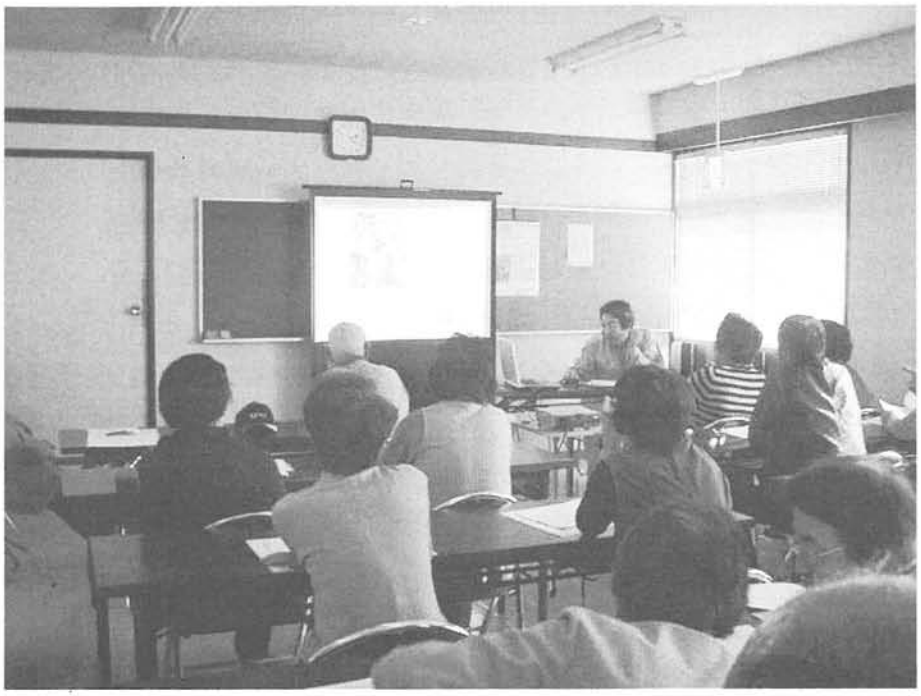


新田の絵

15　米山三里測量図　明治13年・1880

（スライド）

第３回　歴史講座　平成21年10月28日
講師　渡邉　三四一様



歴史講座報告書　第３集
安産の神・胞姫さん

平成２２年３月３１日発行

米山地区コミュニティ振興協議会
〒９４９－３６７５
柏崎市米山町１３３８番地２
ＴＥＬ/ＦＡＸ　０２５７-２６-２５６５

印　刷　有限会社　わかい印刷
柏崎市田中16番15号
TEL 0257－23－6226